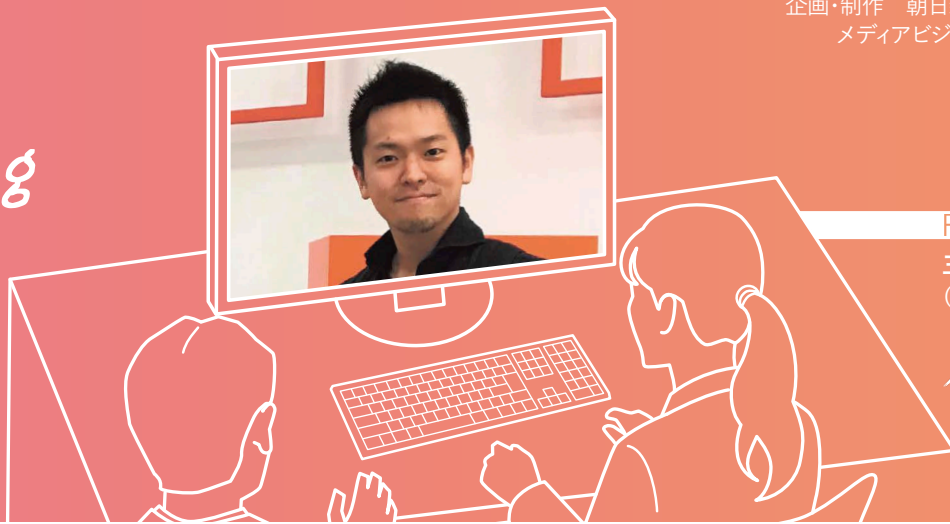


One time, One meeting

シンガポールの設計エンジニアリング会社と三菱商事が合併で設立したMITBANAで、東南アジア諸国の不動産・都市開発に携わる金井宏樹さん。彼が都市づくりを通じて目指す価値とは。現地の人々との出会いを何より大切にしている、彼の仕事の原点とは？



From
三菱商事
(MITBANA出向)

金井宏樹

「今」に向き合うコミュニケーションで 未来の笑顔をつくりたい

【監修】 The Asahi Shimbun
GLOBE+

私はシンガポールを拠点にインドネシアやフィリピン、ベトナム、ミャンマーなど近隣国の都市開発に携わっています。東南アジアは車社会のため、多くの都市が渋滞や排ガスによる大気汚染に悩まされています。そんな社会問題を、都市開発を通じて解決したい。その思いが、日々の仕事の原動力になっています。

「相手の国や地域への敬意をもち、仕事をさせていただいているという意識を忘れないこと」。私は仕事をするうえで、多くの先輩から言われてきたこの言葉を常に肝に銘じています。その原点となったのが、最初の海外赴任地だったミャンマーです。この国のことをあまり知らなかった私は、とにかく現地の方から謙虚に学ばせていただくことに決めました。現地に早くなじみたい一心で、毎日民族衣装のロンジーという長いスカートを着て出社しました。その姿のお陰か、現地の人にたくさん声を掛けてもらえるようになりました。そして急速な経済発展の中で高層ビルや現代的なショッ



ピングモールの建設が進む一方、都市の交通インフラ整備が追い付かず、渋滞による通勤時間の増加など住環境の悪化に悩まされていることなどをじかに聞くようになりました。相手と同じ目線に立つことで得られた新しい気づきと、自身のビジネスをつなげて考えることができた瞬間です。

現在、ジャカルタ郊外で100ヘクタール超の大規模都市開発を進めています。地域住民が悩んでいた渋滞や排ガスによる大気汚染を低減するための、インドネシア初の公共交通機関中心の都市開発への取り組みです。さらにここではAIやIoT、モビリティなど最先端技術を使ったスマートシ



ティーとしての実証実験も行う予定です。これから本格的に開発が進んでいきますが、その地に根付いて暮らす人と直接会い、本音をじっくり伺うことを起点にしていきたいと考えています。

しかし今はコロナ禍で、残念ながら現地に直接赴くことが難しくなりました。その代わりに、各国に駐在し様々な事業を担当している三菱商事の社員がフォローしてくれていて、一人ではたどり着けない新しい情報もたらされるなど、あらためて世界中に張り巡らされたネットワークの強みを感じています。

私はその国の発展の一助となり、将来にわたってかたちを残すことができる都市開発の仕事に大きな魅力を感じています。これからも10年後、20年後、その地がどう魅力的に変わっているのか、そしてその時の人々の笑顔を想像しながら、日々の仕事に取り組んでいきます。



アジア新興国が期待する 「日本の都市開発」

アジア新興国の急速な都市化は、日本が歩んできた道でもある。高度経済成長期に大きな課題になったインフラや住宅の不足、環境問題、交通渋滞を、公共交通機関の充実や質の良い住宅の供給で解決してきた。現在は最先端技術を活用したスマートシティを推進している。そんな日本の経験と技術が詰まった公共交通指向型の都市開発にはアジア各国からの期待も大きい。

「One time, One meeting」の
オリジナル記事は
GLOBE+でご覧頂けます。



<https://globe.asahi.com/brand/mitsubishicorp/2020>